



モニタリングサイト1000

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 ニュースレター



環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2016年 秋期概要

2016年秋期の結果概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2016年度秋期概要をお知らせします。

キアシシギ、トウネンが減少傾向

2016年度秋期調査は、2016年8月1日から2016年9月30日までの期間実施されました。111ヶ所の調査サイトで調査が実施され、このうち一斉調査(9月18日を基準日とした前後1週間の調査)への参加は102ヶ所でした。一斉調査期間では、シギ・チドリ類47種14,328羽、ヘラサギ1羽、クロツラヘラサギ11羽が記録され、秋期の全サイトの最大個体数(調査期間内に記録された各種個体数の最大値)の合計では、シギ・チドリ類51種29,126羽、ヘラサギ2羽、クロツラヘラサギ38羽、ズグロカモメ1羽が記録されました。

2000年からの「全サイトの最大個体数の合計」、「連続して調査が継続されているサイトの最大個体数の合計」を図1に示します。全サイトの最大個体数の合

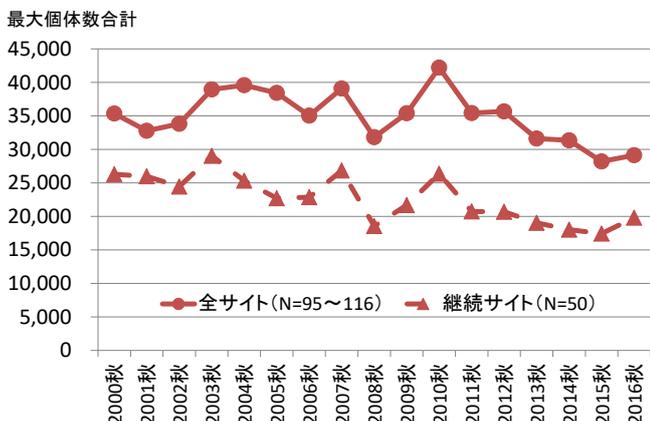


図1. 秋期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移。

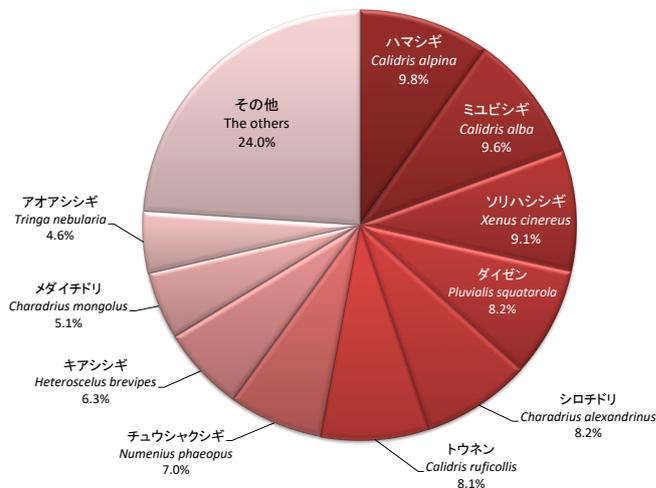


図2. 2016年秋期調査の優占種。

計は、前年度秋期と比べ約931羽増加(+3.3%)し、29,126羽となり、継続サイトでは、前年度秋期と比べ約2,377羽増加(+13.6%)して、19,797羽と両合計とも4年ぶりに増加しました。

最大個体数における優占種の上位5種は、ハマシギ(9.8%)、ミユビシギ(9.6%)、ソリハシシギ(9.1%)、ダイゼン(8.2%)、シロチドリ(8.2%)で、常に上位に入っていたキアシシギ、トウネンが順位を大幅に下げたため、種構成に大きな変化がありました(図2)。ハマシギ(2015年秋2,647羽、2016年秋2,850羽)、ミユビシギ(2015年秋2,725羽、2016年秋2,804羽)の個体数は前年秋と大きくかわっていないので、キアシシギ、トウネンが少なかったことを示しています。

キアシシギは2014年以降、2年連続で減少傾向にあり、2016年秋は前年秋と比べて、837羽減少(-31%)し、過去最小記録を更新しました。階層ベイズモデルによって分析した増減傾向では、2000年以降減少傾向が続いています(次ページ図3)。トウネンも同様に2010年以降減少傾向にあり、2016年秋は前年秋と比

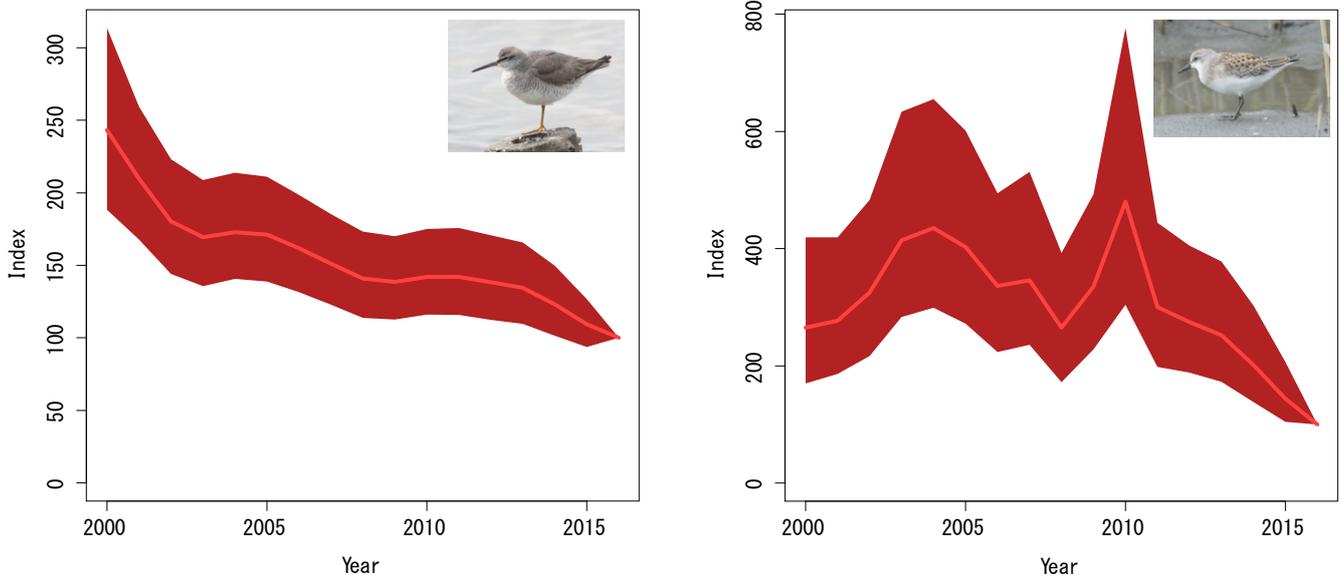


図3. キアシシギ(左)とトウネン(右)の階層ベイズモデルによって分析した増減傾向。2016年の値を100とした。キアシシギは2000年以降減少傾向。トウネンは2010年以降減少傾向。

べて、1,653羽減少(-41%)し、過去最小記録更新しました。階層ベイズモデルによる分析でも同様の減少傾向がみられます(図3)。

台風の影響？

キアシシギ、トウネンの減少の他に、チュウシャクシギが増加し、7位に入ってきたことも大きな変化のひとつです。2016年秋のチュウシャクシギは前年秋と比べて、1,616羽増加(+377%)して2,045羽となり、過去最大記録を更新しました。そこで、チュウシャクシギの最大個体数の合計を地域別に集計してみました。

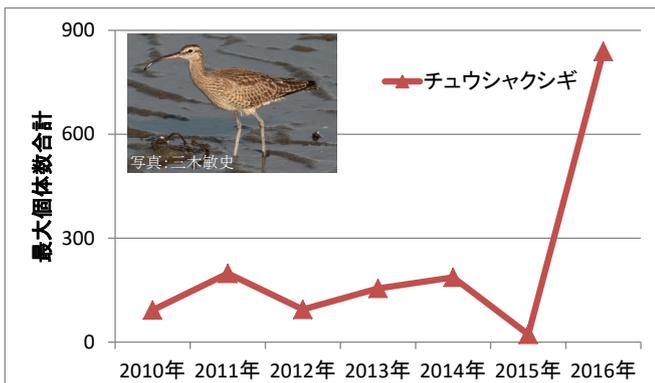


図4. 2010年以降のチュウシャクシギの北海道の調査地における最大個体数の総計。

集計の結果、北海道での個体数が特に大きく変動していました(図4)。チュウシャクシギ(キアシシギ、トウネンもそうですが)は主に渡りの時期に日本を通過していく旅鳥です。繁殖地や越冬地での環境変化が個体数の減少に影響している可能性や、渡りの時期の天候の影響により、渡りルートや飛来時期が変わったなどの可能性が考えられます。

2016年は、8月～9月に日本に上陸した台風が多い年でした(表1)。特に8月の4つの台風はすべて北海道を通過していました。北海道でのチュウシャクシギの最大数の記録は8月28日だったので、チュウシャクシギは天候が回復するまで北海道に留まっていたのかもしれませんが。台風通過後、南への渡りを再開し、9月に九州や沖縄でも確認され、各地の最大数の合計を集計した結果、過去最大数となった可能性が考えられます。

表1. 2010年以降の8月と9月に上陸した台風の数(気象庁HPより引用)。

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
8月	1				1	1	4
9月	1	2	1	2		1	2
合計	2	2	1	2	1	2	6

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:コオバシギ・サルハマシギ 2016年 秋期概要 (奴賀俊光)

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター <http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ <http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史・奴賀俊光 電話/Fax:042-401-8661 メール: shigichi@bird-research.jp